三木市へ視察研修

兵庫県立総合射撃場
～ハンターズフィールド三木～

農業委員　石原　章二
農地利用最適化推進委員　足立　政隆

令和7年11月19日に、視察研修で三木市の県立総合射撃場「ハンターズフィールド三木」を訪問しました。到着後まず驚いたのが、その規模の大きさです。80ヘクタールもの広大な敷地に管理棟や駐車場、クレー射撃場、ライフルスラッグ射撃場、エアライフル棟及びわなフィールドを備えています。令和6年6月から運用開始され、年間6000人を超える利用者があり、銃猟やわな猟の腕を磨いているそうです。

会議室にて兵庫県自然鳥獣共生課の担当者から県内の有害鳥獣の実態の説明を聞き、施設の指定管理者である、株式会社野生鳥獣対策連携センター場長から施設の詳細な説明を受けました。施設内では、ロッカールームや銃保管庫を見学しました。このような施設では初めて女性用更衣室を完備しているそうです。処理加工室も備え、衛生的な解体や加工が最新施設で研修できます。

その後、クレー射撃場やライフル棟を視察しました。ライフル棟では銃猟免許所持者の試射を見学し、その発射音の大きさにびっくりしました。また、エアライフル棟では競技用のエアライフルやピストルの練習場が完備され、ビームライフルは、狩猟免許を持たない一般の方も有料で利用できるそうです。エアライフル棟の横にはわなフィールドが広がっており、箱わな・くくりわな・囲いわな等の設置や見回りの実習ができます。敷地内にある山の中で研修者がわなのレベルアップを図ります。

施設の概要などを聞く

クレー射撃場

近年、有害鳥獣による農作物被害が大きくなる一方で、狩猟従事者の高齢化と減少が顕著になっています。狩猟者の新規確保と育成を図るためにこの施設ができたとのことで、新規狩猟者が増え、狩猟者のレベルが上がり、獣害が少しでも少なくなることを期待しています。

短い時間の研修でしたが、大変有意義な時間だったと実感しています。

獣捕獲のための箱わな

きばっとんなる人らぁ㊽

このコーナーでは、
地域で頑張るみなさんを紹介します。

「営農組合の担い手として」

有川　裕貴さん（城崎町戸島）

有川さんの圃場

城崎町戸島は、山際にコウノトリの人工巣塔やコウノトリの生息地の「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」がある地域で、山に挟まれた低湿な田んぼや畑があり、その一帯が氾濫や、高潮による塩害などの被害をたびたび受けています。

戸島営農組合では、約９haの耕地を、20戸の組合員の中から５名のオペレーターが担っています。その中の1人、有川裕貴さん（35歳）は、サラリーマンから転職就農して４年。待望の若手担い手として作業を受託しています。９haの半分で有機米（コウノトリ米）、酒米を栽培しています。また、有川さんは、米のほか、ピーマン（10ａ）、白菜・ネギ・キャベツ・小豆・夏野菜など（15ａ）栽培し、城崎温泉街の旅館・飲食店に直接販売するほか、地元の城崎コミュニティーの朝市や、JA「たじまんま」などにも出荷しています。

低湿地、度重なる塩害に悩ませられながらも、「戸島の米は本当においしい」との声も寄せられています。

今後は、城崎温泉・コウノトリ戸島湿地・玄武洞の観光の中で、米・野菜・果物を中心とした観光農園の設立も見据え、お客様と顔の見える直接販売も続けていきたいと考えておられます。

（農業委員　和田　茂孔）

「オーガニックを通じた地域づくり」

中嶋　敏博さん（出石町坪口）

豊岡市で有機農業に取り組む中嶋敏博さんは学校給食への有機食材の提供を通じて地域づくりに力を注いでいます。

中嶋さんは、2015年に就農され、経営面積を段階的に拡大し、特別栽培ぶどう34a、有機人参85a、有機ズッキーニ10aを栽培されています。また、中嶋さんは有機農産物の生産・販売を行う6人グループ「豊岡オーガニックワークス（TOW）」の代表を務められています。豊岡市は2023年に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、学校給食における地産地消と有機食材の活用を進めています。TOWは市からの委託を受け、市内3か所の給食センターと有機農産物生産者をつなぐ役割を担っています。現在は、2027年度までに「有機りんりんDAY」を年12回実施することを目標に取り組みを進めています。

市内には、コウノトリ育む農法による水稲（コウノトリ米）の生産農家が多く、学校給食で但馬産無農薬米を100％提供できる可能性が高いです。その反面、学校給食は1日当たり約7,000食が提供されており、これに対応できる有機野菜については、品目数や供給量が十分とはいえないのが現状です。

中嶋さんは、今後について「有機人参に加えて、学校給食で使用頻度の高い有機たまねぎや有機じゃがいもの生産を計画しています。また、市内で増えている耕作放棄地を再び農地として活用していきたいと考えています。」と語っておられます。

学校給食をきっかけとした有機農業の広がりと豊岡オーガニックワークスの今後の取り組みに、引き続き応援よろしくお願いいたします。

（農地利用最適化推進委員　川見　正康）

豊岡オーガニックワークスの圃場